

10月に入り、早いものでもう数日がたちましたね。みなさんは、『〇〇の秋』と聞いて〇〇に何を思い浮かべますか？スポーツ・食欲・芸術・勉強などでしょうか？『読書の秋』もお忘れなく！

1年生は入学して半年がたちましたが、まだ一度も図書館で本を借りていない人も多いはず。2年生の中にももしかしたらそんな人がいるのでは？今日は「本校生徒のオススメする本」を紹介したいと思います。何から読んだらいいのか迷っている人、是非図書館に足を運んで「オススメの本」から手に取ってみてください。ここに紹介する本はほとんどが既に図書館にある、あるいは近日中に購入予定のものです。もちろん3年生のみなさんも勉強の息抜きに是非どうぞ。卒業記念に1度借りてみよう！という方も大歓迎ですよ。

\* 本の後にある【019/T2/1】などという記号は図書館での請求番号です。

\* 今回の本紹介に協力してくれた1年生のみなさんありがとう。

\*

## 本校生徒のオススメする本

☆ 1年1組 T・M ☆

### 1. 伊坂幸太郎「死神の精度」(文藝春秋)【913/T42/2】

この本は私が高校に入って初めて読んだ本であり、私が伊坂さんの作品にはまるきっかけとなった本でもあります。本好きの友人にオススメされて読んだのですが、内容は期待以上のものでした。今まで読んできた本のどれにも当てはまらないストーリー展開と、独特の登場人物が新鮮で、一見つながっていなさそうな話がラストに全てつながる、というところに驚きます。主人公の死神である千葉さんの性格が人間離れしていて独特で(死神だから当然ですが…)すごく面白い作品です。

### 2. 畠中恵「しゃばけ」(新潮社)【購入予定】

江戸時代の長崎でいくつも大店をもつ“お金持ち”の家の息子である、この本(シリーズもの)の主人公、一太郎は見た目もよく優しく度胸もあるのですが、ものすごく体が弱いという(才能??)があります。ふつう物語の主人公は少なくとも走ったり大声を上げることくらいはできるものだと思うのですが、彼の場合はすぐに寝込んでしまいます。それだけでも何か他の作品と違った印象を受けますが、そんな彼が江戸の町に起こる事件を次々に解決していくというストーリーは、私にとって驚きでしかありませんでした。さらに彼には妖が見えるという力があります。彼の周りに集まってくる妖たちは可愛らしいのやら不気味なものやら様々ですが「もし本当にいたら…」と考えてしまうものたちばかりです。小さな話がいくつか連なってできているため、読みやすいと思います。

☆ 1年3組 T・Y ☆

1. カール・セーガン「コンタクト〈上・下〉」(新潮文庫)【933/S22/1-1~2】

地球の観測システムにある日、宇宙からの「メッセージ」が届きます。今までに人類が出会ったことの無かった状況に社会は様々に変化していきます。現代において社会・人類がどうあるべきなのか難しい問題を筆者は私たちに考えさせてくれます。内容は複雑ですがストーリーも面白く、深い話です。

2. Jamais Jamais「AB型 自分の説明書」(文芸社)

最近話題の本です。書いてある内容が自分の性格に当てはまるかを見ていくだけですが結構当たっていて面白いです。隠された自分が見つかることもあって、自分がどんな人間かを考えるきっかけにもなるかと思います。軽く読むのに最適です。

☆ 1年3組 N・A ☆

1. 恩田陸「光の帝国～常野物語」(集英社)【913/O3/4】

私は、読んでいる時は面白くても読み終わるとすぐその本のことを忘れてしまうことが多いのですが、この本のことはいつまでたっても覚えています。とても印象深かったからです。この本は特別な能力を持つ一族“常野”の穏やかで、知的で、権力への志向をもたず、ひっそりと生きる様子を描いた短編集です。途中、泣きそうになります。

2. ラリー・バークダル「ナゲキバト」(あすなろ書店)【購入予定】

一瞬で引き込まれ、気がついたら読み終わっているような短い本です。両親に死なれた男の子が祖父に引き取られ過ごす日々を描いています。私たちがこれから生きていくうえで本当に大切なことがいくつもいくつもギュッと詰め込まれているような本です。何度でも読み返したくなります。

☆ 1年4組 S・A ☆

森絵都「DIVE! 〈1~4〉」(講談社)【913/M75/3-1~4】

これは「飛び込み」という日本ではマイナーなスポーツをテーマにした物語です。主人公たちが「飛び込み」と立ち向かいながら成長していく姿に、友情のことや生きている価値など多くのことを考えさせられました。ストーリーの展開がおもしろく、すぐ読めてしまうのでおすすめです。

☆ 1年5組 Y・H ☆

1. 西田龍雄など「講座言語第5巻 世界の文字」(大修館書店)【808/K2/1-5】

私たちが勉強している英語、それに使われているラテン文字までの成り立ちや今では使われなくなったくさび文字、マヤ文字など様々な世界の文字の起源や成り立ちが詳しく書かれています。文字の形や発音が気になる人は「世界の文字の図典」(吉川弘文館)【801/S7/1】をご覧ください。

2. リチャード・P・ファインマン「ご冗談でしょう、ファインマンさん〈上・下〉」  
(岩波現代文庫)【420/F8/2-1~2】

筆者はニューヨークに生まれ、マサチューセッツ工科大学およびプリンストン大学で理論物理学を修め、1965年にノーベル物理学賞を受賞した。そんな筆者ですが、とてもいたずらが好きで、金庫破りの名人になったり、ブラジルでカルナバル(カーニバル)に出るために楽器を練習するなど…。おもしろく奇想天外な彼の話が詰まった本です。是非読んでください。

☆ 1年7組 O・F ☆

宮本昌孝「風魔〈上・下〉」(祥伝社)【購入予定】

時は戦国時代。豊臣秀吉の北条攻めから徳川家康が征夷大将軍になるまでの話。話の主役が有名な武将でなく忍者におかれているので、歴史を新しい視点から見ることができます。忍者の話は大部分が虚構ですが歴史に沿って話が作られていてかなり詳しく書いてあるので、歴史が嫌いな人でも楽しんで読めると思います。

☆ 1年7組 K・W ☆

1. シドニー・シェルダン「The Chase/逃げる男」(アカデミー出版)【購入予定】

訳あっておじの追跡から逃げ続ける青年の話です。結構易しい文体で読みやすいです。最後までドキドキさせられっぱなしでした。

2. 北村薫「ターン」(新潮文庫)【購入予定】

「何気なく繰り返される日常」に対しての考え方が変わる1冊です。

3. 吉本ばなな「TUGUMI」(中央公論社)【914/Y37/3】

4. サン・テクジュペリ「星の王子さま」【953/S10/4~7】

3. 4. どちらも短くて読みやすいです。

図書館新着図書

～ここに何冊か新着本をあげておきますので  
こちらも是非どうぞ～

☆ 和田竜「のぼうの城」(小学館)【913/W7/1】

時は乱世。天下統一を目指す秀吉の軍勢が唯一、落とせない城があった。武州・忍城。周囲を湖で囲まれ、「浮城」と呼ばれていた。城主・成田長親は、領民から「のぼう様」と呼ばれ、泰然としている男。智も仁も勇もないが、しかし、誰も及ばぬ「人気」があった。

☆ 東野圭吾「流星の絆」(講談社)【913/H50/10】

惨殺された両親の仇討ちを流星に誓いあった三兄妹。「兄貴、妹は本気だよ。俺たちの仇の息子に惚れてるよ。」14年後彼らが仕掛けた復讐計画の最大の誤算は妹の恋心だった。

☆ 森本眞由美「エピソードでつづる初めてのクラシック音楽 スタンダード100」  
(ダイヤモンド社)【760/M15/1】

誰もが気になる有名なクラシック音楽 100 曲を意外なエピソードと共に紹介。その曲が生まれた時代背景から作曲家、演奏者の素顔まで楽しめる 1 冊!またどれを聴いたらいいのか初心者には選びづらいクラシック CD 案内付き。この 1 冊だけでクラシック音楽がさらに詳しくわかります。

☆ シュレーディンガー「生命とは何か 物理的にみた生細胞」(岩波文庫)【081/I1-9/946-1】

量子力学を創造し、原子物理学の基礎をつくった著者が追究した生命の本質、分子生物学の生みの親となった 20 世紀の名著。生物の現象ことに遺伝のしくみと染色体行動における物質の構造と法則を物理学と化学で説明し、生物におけるその意義を究明する。負のエントロピー論など今も熱い議論の渦中にある科学者の本懐を示す古典。

☆ 鷲田 清一、永江 朗「哲学個人授業 〈殺し文句〉から入る哲学入門」(木犀叢書)  
【04/W2/5】

意味もよくわからないのになぜかグッとくる。哲学者の書くとぎすまされた言葉には、歌舞伎役者の切る「見得」にも似た魅力がある。かたや大阪大学総長にして臨床哲学者、かたやフリーライター、肩書きにちがいはあれど、ともに哲学にとことんイカれた 2 人が、ケルケゴール、デカルト、カントから、ニーチェ、サルトル、メルロ＝ポンティまで、古今東西の哲学者 23 人の「グッとくる一言」を題材に、哲学の魅力、おもしろさ、アブなさを語りつくす。

☆ 山岡光治「地図を楽しもう」(岩波ジュニア新書)【291/Y29/1】

煙突や噴火口の煙は東にたなびき、記念碑や針葉樹の影も東に伸びている。作成法や記号が少しわかれば、地図はあなたの街歩き・野山歩きの頼りがいのある友だちだ。オリジナルマップをつくったり、測量遺跡を訪ねたり、地図を思う存分楽しもう。

☆ 坪田一男「理系のための人生設計ガイド 経済的自立から教授選、会社設立まで」  
(講談社)【407/T4/1】

質の高い研究を続けて、研究者人生で成功するには、若いうちから準備を進めていくほうがいい。経済的に自立し、留学し、業績を向上させ、公募をパスし、教授のポストを得て、会社を作り、ごきげんな人生を送る…。誰も明かさなかった研究人生で成功するための全ノウハウをホンネで説明する。

☆ 姜尚中「悩む力」(集英社)【159/K18/1】

情報ネットワークや市場経済圏の拡大にともなう猛烈な変化に対して、多くの人々がストレスを感じている。格差は広がり、自殺者も増加の一途を辿る中、自己肯定もできず、楽観的にもなれず、スピリチュアルな世界にも逃げ込めない人たちは、どう生きれば良いのだろうか?本書では、こうした苦しみを百年前に直視した夏目漱石とマックス・ウェーバーをヒントに、最後まで「悩み」を手放すことなく真の強さを掴み取る生き方を提唱する。現代を代表する政治学者の学識と経験が生んだ珠玉の一冊。生まじめで不器用な心に宿る無限の可能性とは。